

「世界の屋久島」魅力発信！プロジェクト
～地元屋久島の観光産業活性化活動を通じた人材育成～

情報ビジネス科

1 取組の概要

屋久島の産業の中心は観光である。世界自然遺産に登録された当初、爆発的に増えた観光客はその後減少する一方である。また、平成27年5月に口永良部島の新岳が噴火した風評被害も大きい。観光産業の停滞が島全体の経済に悪く影響していることは、島民全体が感じているところである。

一方で課題として、観光ガイドマップが十分でないことや質の低さについての指摘、及び外国人観光客に対する情報提供不足の指摘が多い。また、食目当ての観光客はほとんどいない状況であり、食のPRは屋久島町の大きな課題である。

地域と連携し観光活性化することで屋久島町全体の元気につなげ、世界に魅力を発信できる活動としたい。

2 取組のポイント

(1) 地域の魅力

屋久島は島の約21%にあたる地域が世界自然遺産に登録されている。豊かで美しい自然に溢れており、中央にある宮之浦岳は九州最高峰であり、口永良部島は魚釣りのポイントも多く温泉も良質である。屋久島・口永良部島2つ合わせて平成28年3月20日にユネスコエコパークに再登録された。

(2) 地域の課題

離島には経済的に非効率な面が多く、様々なハンディキャップがある。一方では、自然や特有の文化・特産品などの魅力が溢れている。本校のある屋久島も特に世界自然遺産に登録後、独特の魅力を求めて、国内はもとより世界各地から観光客が訪れている。しかし、世界自然遺産に登録されてから今年で25年になり、富士山他の世界遺産登録なども相次いだこともあり観光客数の益々の減少が加速している。島の経済の中心である観光業が危機に面しているのが現実である。

(3) 育成する人材像

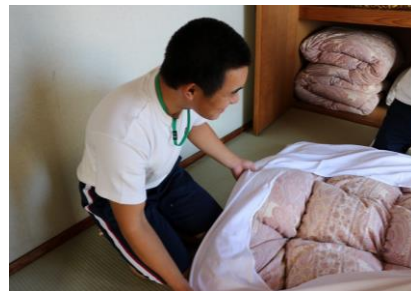
地域の方々とともに活動する過程において、企画力や情報発信力を身に付け、将来は地元屋久島の中心産業である観光活性化を中心となって担う人材の育成に努める。

3 人材育成プランの概要

(1) 活動の詳細

ア ホテル実習・観光産業現場実習

島内17カ所の観光産業現場において1, 2学年全員が実習を行った。実習を通して観光客の方と接し、観光産業に従事する仕事をプロの方から指導していただきながら体験することで、将来の地域産業を担う人材としての意識が向上する実習となった。



イ クルーズ船観光の積極的誘致

クルーズ船が屋久島に寄港するにあたり1回で約500万円の経済効果がある。お土産を始めバスやタクシー、水や食料の積み込みなど各分野における経済効果が期待できるのだが、一昨年度は24回寄港しているのに比べ、昨年度の1月～3月には19回寄港と5回も減った。口永良部島噴火の風評被害が大きい中、屋久島町全体で元気を取り戻そうと地域一体で力を入れて取り組んだ。

(ア) おもてなし

屋久島は離島であるため、通過型（立ち寄り）観光の増加は見込めない。船や飛行機の座席が限られているため限界がある。そこで、日帰りで寄港する大型観光クルーズ船に着目し、寄港回数の維持、もしくは増加を狙った取組を屋久島町商工観光課、屋久島町観光協会と連携して行った。

島で生産された紅茶または緑茶をふるまい観光客の方とコミュニケーションを取る。観光を終えて出港までの間、お茶を飲みながら会話をすることで屋久島の印象を少しでもより良いものにしてほしいというねらいである。客層の年齢が高く高校生とは喜んで会話を弾ませてくれる。

また、生徒にとって異年齢との会話はコミュニケーション能力が向上する効果が期待できる。



(イ) 特産品販売

出港セレモニーの前に出来る時間わずか1時間半ほどの時間を使って特産品販売を実施した。特産品協会から仕入、POP 広告作成、販売、利益計算という

一連の流れをすべて生徒が行った。

【特産品売上報告】

5月11日	139,750円
7月5日	158,900
7月13日	119,060
10月8日	149,600
10月15日	92,900(←悪天候のため)
10月19日	196,910
合計	857,120



【仕入から売上報告までの流れを体験】



この特産品販売は島内ほとんどのお土産を取り扱う協会からの仕入で行っているため、経済効果は大変大きく、生徒たちも実際にお金を手にして金額の数字を目にすることで、自分たちの行動が活性化につながっていることを大きく実感することが出来た。地域から大きな反響を頂いているので、期待に応えられるよう今後も取組を継続させていくつもりである。



ウ 商品開発

屋久島の食イメージは他地域に比べて弱い。原材料としてはたんかんやぼんかん、さばや屋久とろなどがあるものの、グルメにおいてはPRできるものがほとんど無い。観光メインが登山などの自然相手なだけに、悪天候時に有効な食でPRできないでいることは課題として大きい。

シーサイドホテル屋久島と連携して、屋久島の新グルメ開発に取り組んだ。考案したアイデアをシーサイドホテルの料理長と総務課の方へプレゼンテーションし、意見を聞きながらアイデアを重ね、試作会を実施した。採用されたメニューを「高校生レストラン」で限定150食として、準備・調理・接客全てを生徒たちの手で行い、企画運営を行った。

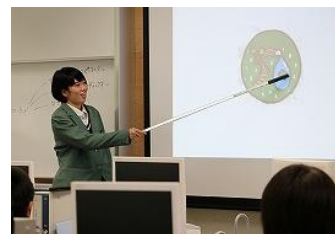
【高校生レストランの様子】



エ 観光PRイベント（縄文杉発見50周年記念事業への協力）

屋久島が世界自然遺産に登録されるきっかけとなった縄文杉発見50周年となった2017年、屋久島町では様々な観光PRイベントを企画することが決定した。そこで以前から観光活性化に積極的に取り組んでいる屋久島高校の生徒たちに様々な場面で連携して活躍できる機会を頂いた。

50周年の50という数字を屋久島の持つイメージで表現するというアイデアで作成。雨の多い屋久島だが、だからこそ美しい自然が作られたという意味で、しずくの中に屋久島と口永良部島の形を入れ込む。縄文杉まで続くトロッコ道は屋久島の歴史でもあり大切に保存していかなければならない景観でもある。様々なメッセージを込めて表現し、素晴らしいロゴを完成させることができた。



【ロゴを使った商品開発と販売の様子】



4 成果と課題

(1) 課題解決の状況

観光客減少による経済衰退の課題を、高校生が解決するというのはあまりにも困難な内容であるが、この1年、観光活性化に関する様々な取組をした中で、効果として実感できることは多い。

- ・クルーズ船おもてなし活動の実施

結果→来年の寄港回数8増（約4千万の経済効果増）

- ・特産品販売の実施

結果→合計857,120円の売上

(2) 評価

ア 職員・生徒

地域からの期待に応えることは十分できたように思う。また生徒自身がこの活動に参加する度に成長できることを実感していた。進路における面接でも、この取組を堂々とアピールし受験している生徒がほとんどで、大きな自信につながっていた。

イ 連携機関

今回連携して頂いた観光産業に関わる13事業所から頂いた評価である。概ね良好であるが、消極的な生徒に対する評価は実習を繰り返すことで改善できるようにしていく必要を感じた。

【実習中の生徒について】

- | | | | |
|-----------|------|-----|------|
| ・挨拶言葉遣い | 良好8 | 普通5 | 不十分0 |
| ・対応態度 | 良好8 | 普通5 | 不十分0 |
| ・仕事に対する姿勢 | 良好10 | 普通3 | 不十分0 |

(3) 今後の課題

この取組を、いかに継続発展させていくことが課題である。特に地域との連携は産業教育の中でその重要性を強く感じた。地域をフィールドとして活動することで自然とコミュニケーション能力が身に付くことが実践できた。将来の地域産業を担う人材として意識を向上させ、更に積極的な活動を続けていきたい。

(4) 研究期間

平成28年4月～平成29年12月